

品目	県名	作型	主要品種	出荷期	作付面積	出荷見込み		8月のピーク(%)			主産地
				期間	ha	出荷総数	京浜地域向	上旬	中旬	下旬	
				(ピーク)	(前年比)	千本	千本				
バラ	茨城	施設	サムライ08, アヴァランチェ, アイリーン, パリ, アリシア, ローテローゼ, ティネケ 他	周年	11 98	290	200	30	35	35	石岡市, 土浦市, かすみがうら市, つくば市 他
	群馬	施設	アヴァランチェ サムライ 他	周年 (5~11月)	13.2 90%	950 85%	850 85%	35	32	33	前橋市 昭和村 富岡市
	山梨	周年	ローテローゼ, サムライ等	周年 ()	2.5 66%	290 94%	280 93%	35	35	30	笛吹市(御坂町)
	大分	周年	Mシリーズ Jシリーズ その他各品種	周年 ()	8 (100%)	400 (85%)	140 (85%)	30	30	40	玖珠 山香 九重町飯田
トルコギキョウ	山形	加温 無加温 シェード 加温	ホヤージュシリーズ ピッコロシリーズ ロジーナシリーズ 他白八重 他ピンク八重 他黄八重 一重 等	6~11月 (7~10月)	25 (89%)	910 (100%)	685 (100%)	40	40	20	JA新庄市 JA新庄もがみ JA山形もがみ JA鶴岡 JA庄内たがわ JA庄内みどり JA山形市 ほか
	北海道	促成~	ピッコロサスノー ジャスニーホワイト クラリスピンク 海ほのか	5~11月 8~9月	2485 98%	5,126 103%		50%	40%	10%	由仁町 JAそらち南
	秋田	施設	ロジーナシリーズ ピッコロサシリーズ セレモニシリーズ	6月~12月 (8月~10月)	10.8 (100%)	2129.7 (100%)	1491 (100%)	30	40	30	かつの・秋田しん せい・秋田おば こ・秋田ふるさと・ こまち・うご
	茨城	施設	コレゾライトピン ク, マリオホ ワイト, ピンク ダイヤモンド 他	周年 (6月~7 月)	10 100	50	30	40	30	30	石岡市 他
	大分	周年	レイホホワイト 海ほのか 他品種	周年 ()	6 (100%)	70 (95%)	35 (95%)	10	30	60	玖珠九重 日田 杵築
	熊本	施設	ミヨシ系 サカタ系 八江系など	周年 11・5月	22.3 (昨年)	667 (昨年)	202 (昨年)	20%	31%	49%	熊本市 菊池 八代 球磨 など
	福岡	秋出し		10月~12月	12.3ha(期間計) 88(期間計)	960(10月) 80%(10月)	288(10月) 81%(10月)	15%	35%	50%	たがわ みい 直鞍 他県下JA

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
輪菊	秋田	秋田しんせい:白(精興北雲)は下旬に3,000本出荷予定。黄色(山陽黄金)は中旬4,000本、下旬8,000本出荷予定。赤(美吉野)は下旬に6,000本の計画。 秋田ふるさと:現在10月出荷分の花目決めの作業中。生育は順調。9月下旬～10月上旬まで白(精の波)が出荷され、黄色は精興の昇Ⅱを中心に、精興光世等が出荷となる。	<p>現状</p> <p>彼岸需要期に向けた販売が中心。9月前半に関してはやや品薄な状況で高単価で推移、中旬以降は需要期に向けた販売中心となった。下旬に関しては各地遅れの影響もあって数量纏まり、やや落ち着いた販売となった。</p>
	茨城	・品質は概ね良好の見込み。 ・出荷ピークは平年並みの見込み。	<p>見通し</p> <p>大田花き 上旬から中旬に関しては数量も纏まりやや落ち着いた販売となる。中旬以降高冷地産地の出荷も減少していく事で全体数量が少なくなり小売需要中心に引き合い強くなっていく。</p>
	山梨	生育は前進傾向、害虫の発生がやや多い。	<p>FAJ 需要期を過ぎ入荷落ち着く見込み。作付は例年並みの予想。愛知と九州中心の入荷。</p>
	香川	夏秋ギクと秋ギクの切り替わり時期。8月までの日照不足と多雨により、作業遅れ気味で数量は前年並みからやや減少を見込む。特に露地栽培は、8月の台風被害で、倒伏や植え替えが見られる。	<p>東日本板橋花き 中旬より増加の見込み、特におおきな需要なく動きは鈍い見込み</p> <p>世田谷花き 上旬は出荷量も少なく、中下旬にかけて、下旬から増えるだろう。</p>
	大分	中旬までは精の一世と優花主体の出荷。以降は徐々に神馬に切り替わる。上中旬は夏菊の終盤のため数量は一旦落ち込むが、神馬の纏まり次第で下旬に増加となる見込み。	<p>第一花き</p>
	熊本	生育遅れなどなく生育順調。 中旬までは現在と同様に枕など中心の出荷となるが、下旬移行については徐々に秋系品種へ移行していく。 10月中旬に一度出荷の山が来る見込み。	
	福岡	生育については、前進傾向で優花が計画に対し数量が少なく、一世中心の出荷なっている。当初の計画に対して10月上旬は少ない出荷となっている。現在日量800ケース前後計画では、雪姫、神馬などが下旬より増加予定であるが、前進傾向もみられるため計画よりも早い出荷開始となる可能性がある。(雪姫の共選開始は10月20日から予定)	
小菊	秋田	秋田しんせい:赤88,000本、白28,000本、黄71,000本の計画。 7月の強風による曲りが見受けられる。稲刈りや採花作業で防除がおろそかにならないよう注意している。 秋田ふるさと:上旬は赤が多く、中旬は黄色と赤が多め、下旬は各色揃い、全体で30万本の計画をしている。生育は順調である。	<p>現状</p> <p>彼岸需要期に向けた販売が中心。9月前半に関しては一部の品物で前進している物があり、やや販売苦戦。中旬以降は彼岸需要中心に引き合い強まる。下旬に関しては輪菊同様 色目によって遅れている物があり引き合いも落ち着く。</p>
	茨城	・一部圃場で、定植時の多雨の影響で草丈不足などの見込み。 ・一部圃場でオオタバコガの発生が見られる。	<p>見通し</p> <p>大田花き 上旬から中旬に関しては数量も纏まりやや落ち着いた販売となる。中旬以降品種の切り替わりも多く、数量が纏まらない為小売中心に需要に対して入荷量が少なく安定した販売となる。</p>
			<p>FAJ 東北出荷は数量減少見込みだが、ほぼ例年並み入荷数量となる見込み。</p> <p>東日本板橋花き 不安定な入荷となり色バランスの崩れが洋装される。</p> <p>世田谷花き 産地は変わらず、入荷は減少。減少する分、単価は安定か。</p> <p>第一花き</p>

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
バラ	茨城	・出荷のピークは平年並みの見込み。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">現状</div> 昨年の取引は高単価で推移したが、週末大安など無く、活発な取引では無かった。3連休は国産品中心に活発であったが、西南暖地中心の下位等級は厳しい販売であった。
	群馬	一部地域では8月下旬の日照不足の影響から株立ちがやや悪いが、総体的には目立った病害虫の発生もなく、生育は順調。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見通し</div> 大田花き プライダル中心の取引。輸入品は昨年の低相場を受け入荷が減少する見込み。 3,139,026本 @75
	山梨	生育は順調。昨年より2～3日遅い。	FAJ 引き続きプライダル中心の値動き。 高冷地から徐々に西南暖地にシフト。 東日本板橋花き 入荷量は徐々に増えてくる。婚礼シーズンに入ってくるので業務中心に引き合いが強まってきます。
	大分	気温が下がってきたことから9月中旬より加温を開始。現在品質上の大きな問題はないが、開花が遅れていること、植替となる品種の面積が大きいため月間を通じて前年を大きく下回る出荷が見込まれる。	世田谷花き ステムも徐々に伸び、数量増加の見込み。各方面の需要に期待。 第一花き
トルコギキョウ	山形	10月出し作型の生育は、前年並みからやや早い発蕾となっており、全般に出荷は前進傾向にある。品質は良好であり、病害虫の被害はほとんどない。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">現状</div> 生産地では8月の天候不順の影響より出荷数量も2割程度の減少で推移。需要動向に対しても、不足感が強い中での出荷、販売経過より単価高にて推移。
	北海道	当初、好天続きによる9月前倒しの出荷見込みをしていたが、お盆以降涼しくなったため平年通りの出荷となりそうである。現状、順調な出荷である。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見通し</div> 大田花き 福島・秋田・長野の高冷地産地構成に加え、暖地の福岡からの入荷も微増。全体の入荷割合も極端な増加は見込めない為、現状の相場形成が続いて行く事が見込まれる。
	秋田	秋田しんせい：白八重、ピンクローズ系中心に59,000本の出荷予定。 6月～7月定植のシェード作型は前進気味で、10月中には出荷し終わると見ている。 秋田ふるさと：品種にもよるが、1週間程度の遅れ。日照不足による品質低下が懸念される。 11月出荷が多くなると見ている。	FAJ 引き続き宴会需要中心の取引続く見込み。 北海道・秋田など北日本中心の入荷。 東日本板橋花き 気候も早くに秋らしくなり、出荷物は圃場で控えているが、急激に増えることはなく潤沢。
	茨城	・出荷ピークは上旬の見込み。 ・中下旬の出荷は遅れる見込み。	世田谷花き 需要は高まるものの、8月の大雨の影響で、九州・四国方面の出荷が遅れる見込み。品薄傾向。 第一花き
	大分	9月末より出始めたが低温により開花が鈍く、品種によっては出荷に一旦切れ目が出るなど上旬は数量は纏まらない見込み。下旬から11月頭にかけて県内主産地は出荷開始となる見込み。	
	熊本	8月の日照不足から生育の遅れが懸念されていたが、本年RTF苗処理に取り組む産地が増えており順調に生育している。一方、天候の影響からか一部チップバーンの発生が見られる。10月10日前後から出荷開始予定。	
	福岡	秋出し期間合計の出荷計画は、260万本(前年比97%)。 月間の出荷ウェイト： 10月(36%)：11月(48%)：12月(14%) 作付面積は春出しへの移行などにより減少(JAたがわ) 8月は、日照不足で軟弱な生育となり品質低下が懸念されたが、9月の天候が回復し品質は改善している。昨年は前進傾向となり10月中下旬の早い出荷ピークとなったが、本年は出荷開始がやや遅れ10月下旬～11月上旬をピークとなるため平年並みの出荷となる見込み。	

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
ストック	山形	<p>10月出しの播種は7月下旬に行われ、概ね順調な発芽となった。</p> <p>初期生育は、8月の気温が平年並みからやや低温で推移したことから、概ね順調に推移している。</p> <p>出荷始期は、花芽分化や発達が順調に進んでいることから、前年並みの9月下旬からとなる見込みである。</p> <p>出荷量は、播種時期を前年よりもやや遅らせた産地もあることから、前年の95%程度と見込まれる。</p> <p>コナガ等の病害虫が散見されている。</p>	<p>現状 本年、現時点では産地よりの継続出荷は始まっていない状況。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 本年は9月の生産地、年内メインの山形方面も残暑はなく、現状は平年並みの生育状況。10月上旬より内陸山形方面の産地より入荷開始予定。</p> <p>FAJ 東北などより入荷。出始めは白中心の色目も徐々に色物増える見込み。</p> <p>東日本板橋花き</p> <p>世田谷花き</p> <p>第一花き</p>
アルストロメリア	北海道	<p>稲刈り時期を終え、徐々に出荷量は増加していく見込み。</p>	<p>現状 曇天と低温の影響から北海道が減少し、愛知、長野中心の入荷となった。業務需要中心に引き合いがあり、気温も下がり日持ちも良くなってきたことから、小売りの動きも出てきた。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 愛知、長野中心に増加し、新品種も出そろってくる見込み。350,000本 @85</p> <p>FAJ 10月も長野・山形中心の入荷。徐々に数量増加し比較的安定した相場での取引続く見込み。</p> <p>東日本板橋花き 愛知、北海道、青森、福島の入荷。愛知産が増えて来る。</p> <p>世田谷花き 各色・各階級、より潤沢にに推移する見込み。引き合いも強まる。</p> <p>第一花き</p>